



アニコムグループでは、どうぶつの健康寿命延伸に役立てるため、
「どうぶつが食べたら危険なもの」について詳細な調査を行い、公表してまいります。

人とどうぶつの違いについての理解を深めていただくことにより、
食べたら危険なものによる“涙”を減らす一助となれば幸いです。

※食べたら危険なものに対する反応は、個体により差があります。記載されている致死量等は目安の数値です。

本件の調査結果については十分な調査を行っておりますが、万が一事故等が発生した場合、当社は一切の責任を負いかねます。

カカオ

〈チョコレートやココアの原料〉 中毒成分：テオブロミン

影響を受けるどうぶつ



犬



猫



鳥



うさぎ



フェレット

※他のどうぶつでも同様の症状が出る可能性があります。

毒性

テオブロミンの致死量

体重1kgあたり100mg

小型犬約5kgの場合：ダークチョコレート100g
(板チョコ2枚程度)

※チョコレートの種類によりテオブロミンの含有量は異なる。

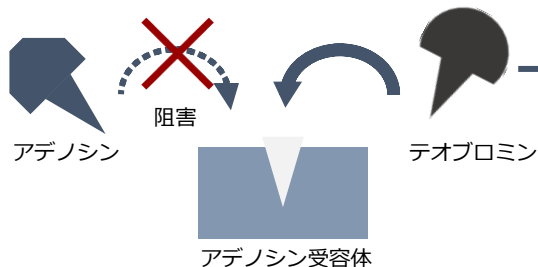


作用機序

※犬の場合は特に、テオブロミンの体内での分解が遅いため、体内に停滞しさまざまな臓器に影響する。

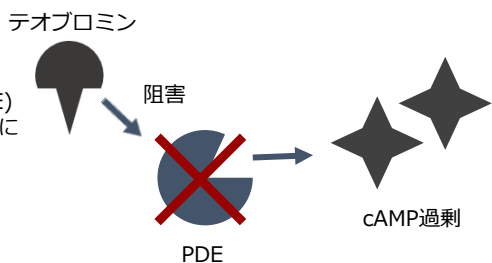
作用①

神経の活動を抑制する
アデノシン受容体に結合し
興奮を抑える機能を阻害する



作用②

細胞内で情報を伝達する物質
(cAMP)の増加を抑える酵素(PDE)
の働きが阻害され、cAMPが過剰に
なる



主な症状



脳
神経がつねに
興奮状態になる



心臓
心筋の収縮力を
高める



気管支
気管支の筋肉が
弛緩する

嘔吐・発作

頻脈・不整脈

呼吸困難

最悪の場合
死に至る